

平成17年5月19日

外国語演習について

総長室・教育改革室

平成18年度以降の教育課程検討WG

平成18年度以降の教育課程についての全学部向け説明会(5月17日)等において、新設の外国語演習についてさまざまな質問・意見が出ましたので、この科目の設計についてWGの基本的な考え方を整理しました。

平成18年度以降の教育課程において新設する外国語演習については、「関係部局合同説明会・意見交換会での質疑応答一覧」(「最終報告」参考資料、平成16年12月)で、英語演習について以下のように記しました。

Q:「英語演習」と「学部英語」の関係、「学部教員の協力」の内容がよく分からない(文系)

A:「英語演習」では、学部での英語教育との接合・国際交流科目との補完関係にも配慮しながら、外書講読・工業英語・英語による専門教育なども含めて、多様なレベルと内容の授業を展開したい。それには「学部教員の協力」が不可欠。その「負担」は、文系学部では「責任コマ数」の範囲内で処理できるが、理系学部では「全学支援」の形になるかもしれない。現在でも、国際交流科目との合同授業・一般教育演習等において、英語を使った授業・外書講読などが開講されているので、それらを「英語演習」に移すことも考えられる。

コメント:今後は、全学教育での英語教育・各学部での英語教育・大学院共通授業・国際交流科目、さらには留学支援制度などを総合的に運用して、北大の英語教育の強化を図る。各研究科、言語文化部における外国人の教員の増加を図る必要もある。

初習外国語の演習についても、今後、可能なかぎり同様の考えに沿って拡充を図るよう提言します。

すなわち、外国語演習では、従来からの「読む」「書く」「話す」「聞く」能力の向上を目指す科目のほかに、専門教育との関連にも配慮して、新たに「外国語を使って教える」科目、「外国語について教える」科目も開講することとします。

これによって、本学の外国語教育がより多彩で、「使える」ものとなることが期待で

きます。

上記の方針に基づき、外国語演習の段階的な充実を図ることとします。

1) その大部分は、現在2年次に開講されている外国語科目及び1～4年次に開講されている外国語A・B演習、外国語C等を2単位科目(週1コマ1学期の授業で2単位)に組み替えた授業となります。

2) そのほかに、現在一般教育演習等の中で開講されている、国際交流科目との合同授業あるいは外国語関連のさまざまな授業も、外国語演習として開講することを検討します。最近開講されたこのような科目としては、たとえば英語関連では、以下のようなものがあります。

年度	学期	授業科目	講義題目	所属	担当教員
17	1	科学・技術の世界	英字新聞で読む「科学技術と社会」	理	杉山滋郎
17	1	科学・技術の世界	Introduction to Contemporary Physics and Scientific Writing	理	羽部朝男
16	2	社会の認識	Reading Japanese Law in English	法	會澤恒
16	2	一般教育演習	Japan and North America: A Cultural Comparison	言	ポール・スティブルトン
16	2	一般教育演習	Power of Design	留	常田益代

今後、全学教育委員会、科目責任者会議等で議論を深め、初習外国語も含めて、多様な内容・レベルの外国語演習の充実を図るよう提言します。

このような科目の充実のためには、「学部教員の協力」に期待します。ただし、できるだけ「新たな負担」が生じないように、文系学部では「責任コマ数」の範囲内での協力、理系学部では一般教育演習等に係る「全学協力」あるいは「全学支援」による応分の協力の枠組みを設定する必要があります。

なお、外国語演習に2～4単位の選択必修を指定する場合の実務的な諸問題については「全学教育科目実行教育課程表作成上の注意事項」を参照してください。

以上